

Monthly Report

D-SCAN

大広・生活者情報総合データベース

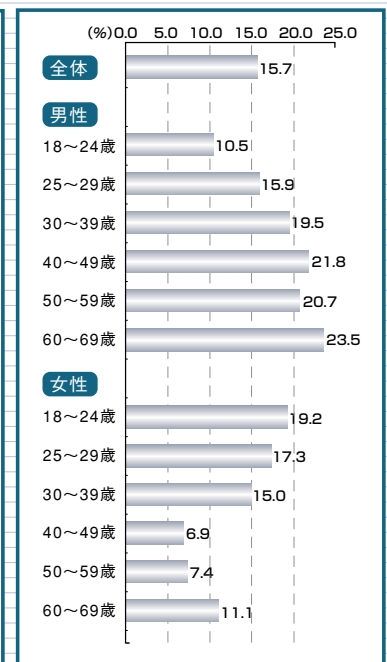
気軽に始めてどんどんハマる、シニアの新写真生活

～「健康、交流、旅行、学校＝シニアの需要創造4つのコウ」

に写真をプラス!で強力マーケットに?!～

2002年5月に当社が発行した「アクティブシニアマーケットの誕生」でシニアのニーズを「旅行」「社交」「学校」「健康」の“4つのコウ”と定義したが、旅行や社交に関連する形で“シニアの写真”が注目されている。

図1 カを入れている趣味
「写真、カメラ、ビデオ撮影」(MA) N=3000



D-SCAN調査

● 写真を学ぶシニアが増えている

- 最近、専門学校やワークショップで写真を学ぶ人が増えている。OLや主婦などに混じり高齢者も多い。短期講座の2割が中高年、女性が6割という学校も。また生涯学習のテーマとして「デジカメ」の人気の上昇中だ。
- 「シャッターを押せば写る写真」は、技術がなくても手軽に始められることが魅力。デジカメの浸透でさらに敷居が低くなりつつある。

● 中高年男性は写真好き! 今後はシニア女性も!?

- D-SCAN調査を時系列で追うと、カを入れている趣味の中で「写真、カメラ、ビデオ撮影」は5年前から6%増加し16%に。
- 年代性別で見ると、カを入れている率が最も高いのが60代男性で40代以降の男性は軒並み高く2割以上。一方、カメラの持ち歩きで一世を風靡した若い女性はカメラ付き携帯電話に移行。デジカメで写真に参入を始めた中高年女性の動きが注目される。(図1)

● シニアが写真好きなのは……自然、仲間、地域、ライフワーク

- さらに、D-SCANゴールドエイジ調査(65歳以上対象)で見ると、70代でも写真にカを入れている人の率は減少せず、逆に70～74歳男性では27%と全世代で最高に。
- シニアのレジャー意識は「心のよりどころになる」「仲間と学んだり楽しんだりする」「自然環境の中で楽しむ」「地域の行事に関心がある」などの高さに特徴がある(D-SCANゴールドエイジ調査)。写真はその点でも合致する点が多い。

● 好調なシニアのパソコン教室、目的は「写真の加工」

- シニア層をターゲットにしたパソコン教室が好調だ。「パソコン塾」では50歳以上が6割。パソコンを使った趣味の講座の人気の高い。お目当てはデジカメの写真を使ったオリジナルのカレンダーやアルバム作り。また富士通ラーニングでは、写真加工講座を全国で展開。両社とも写真加工を軸に楽しめるサロン化を進めている。
- 今回は、このようなシニアの写真への興味の高まりを背景に、シニアの写真ライフの現状と市場性にインサイト!



アクティブシニアの写真生活2003 = “日々の感動メモリアル!”

* 調査概要：インターネット調査、2003年3月実施。
50～64歳で自分専用のカメラ（一眼レフ・コンパクトカメラ・デジタルカメラ・インスタントカメラ）を所有する男女計200名（男女各100名）

● 趣味の一つ=5割、今後趣味にしたい=34%

- ・「カメラ～写真撮影は趣味といえるか」という質問に対して、「最も熱心な趣味～趣味のひとつ」という人は49%、「今後趣味にしたい」も34%。
 - ・「現在所有しているカメラの種類」は、「デジタルカメラ」が76%と圧倒的に多く、以下「コンパクトカメラ」（52%）、「一眼レフカメラ」（40%）、「インスタントカメラ」（28%）。男性は一眼レフ所有比率が高い。その他は男女ほぼ同じ。
- ネット調査のため、デジカメ比率が高くなったという点は否めないが、手軽さからシニア層でもデジカメが普及した傾向が伺える。

● パソコンやデジカメが興味の入り口に

- ・「写真を趣味にしたきっかけと理由（自由記入）」では、「小中学生の頃から好きだった」マニア派（男性に多い）、「結婚、子供や孫の誕生がきっかけ」のファミリー派、「旅行や趣味の記録」のメモリアル派に分かれた。
- ・メモリアル派は、最近写真にハマり始めた人に多い。「パソコンを始めてから」「デジカメを買ってから」「友人にメールで写真を送る」などパソコン、メール、デジカメとの複合性が特徴。

● 休みの日にはカメラを持って出かけ

- ・「カメラ・写真との関わり」では、7割以上が「旅行の際には必ずカメラを持ち歩く」のはもちろん、「休日の外出に持ち歩く」人も3割、「普段の散歩にも持ち歩く」人も15%いた。
- ・撮った写真は「アルバムに保存」する人が6割。自分の写真を部屋に飾る人も35%いる。また3割の人が撮影した写真を年賀状などに利用している。（図2）
- ・その他の利用法としては、「料理の写真を撮り編集」というような趣味の記録。これらを「Webで公開」する人も。「近況を留学中の子供にメールで送る」「飲み会では自分が写真係りとなり後日皆に配る」など交流にも役立てる。「物忘れが多くなるので記録として」は切実な利用法？

● 自然からペットまで幅広く撮る

- ・「よく写すもの」は、「風景や自然」「人物」が64%で最も多く、「家族」「国内外の旅行先の光景」も過半数を超えた。「日常のスナップ」「植物や動物」「我が家のペット」も3～4割。「祭りなどの行事」も2割強いる。（図3）
- ・「写真が趣味」という人は、「風景」をはじめ色々なジャンルを幅広く撮る。これに対して、これから趣味にしたいという人は、「旅行先の光景」や「家族」、「ペット」など身近なものをよく撮っている。

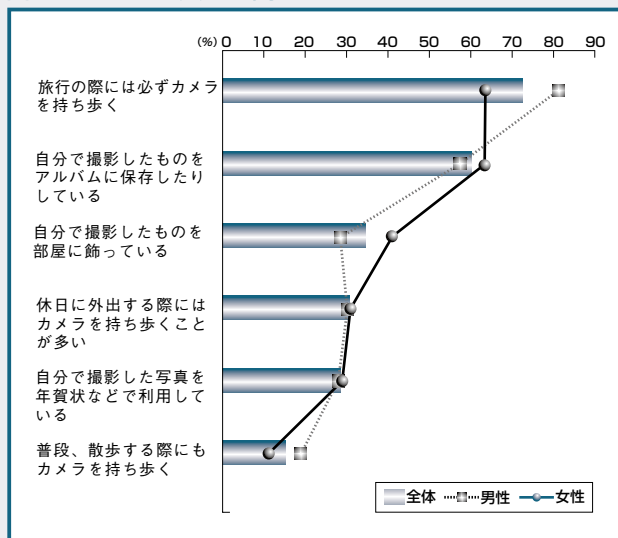
● デジカメで新・写真生活始めます!

- ・「今後（今後も）写真を趣味にしたいと思う理由（自由記入）」では、「デジカメを購入し何でも撮影したい気分!」「デジカメを使うようになり手軽に楽しめるようになった」「デジカメの写真をメールで送るのが楽しい」「デジカメは現像にお金がかからない」など、デジカメが写真趣味の動機になっているケースが多い。とりわけ「今後趣味にしたい」というライトユーザーは、デジカメが新写真生活の出発点となっている。

● 男性は生活の幅を広げるきっかけに、女性は趣味の記録に

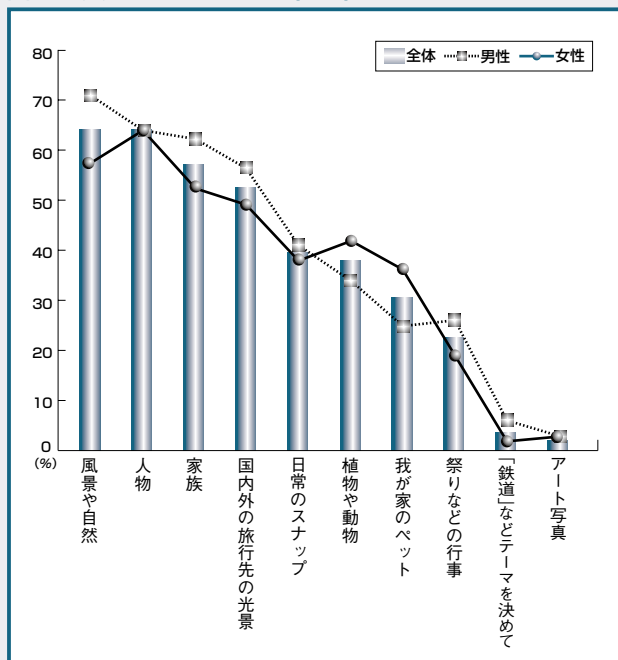
- ・また男性では、「何か趣味を持ちたい」「老後の楽しみにしたい」「生活の幅を広げたい」など、定年後の趣味として考える人が目立つ。「運動のため散歩がてらカメラを持ち歩いて珍しいものを撮りたい」「自然に接したい」という健康～自然・趣味派も。
- ・女性は、「感動したものを残したい」「孫の成長を撮りたい」等、メモリアル志向。ガーデニング、料理、フラワーアレンジメントなど、「自分の作品をもっと上手に撮りたい」というように“メインの趣味の記録”という形態が多いのも女性の特徴。

図2 カメラ・写真との関わり N=200



インターネット調査

図3 写真でよく写すもの (MA) N=200



インターネット調査



シニアのデジタルカメラ評価=楽しくて使いやすい!!

● 便利+経済性+編集性+携帯性で「重宝してます!」

- ・シニアはデジカメのどんな点が気に入っているのだろうか。「デジカメについての意見、感想(自由記入)」では、最も多くあがった評価は<便利さ+経済性>だった。「その場で画像を確認できて失敗が少ない」「必要なものだけ残して気に入らない写真は消去できる」「フィルム代や現像代がいらぬ」「どんどん撮れるのでカメラよりよい写真が撮れる」など、“気兼ねなくいっぱい写せる”点が大きな魅力。
- ・また<編集加工性や応用性>への評価が高い。「パソコンに取り込むには絶対必要」「自分でプリントアウトできる」「すぐにホームページにアップできる」「編集・加工や保存性に優れる」「メールで送れる」。「普通のカメラとは違ういろいろな使い道がある」のでパソコンユーザーは世界が広がる!
- ・さらに携帯性や使い勝手の良さ。「コンパクト」で「軽い」ため「手軽に持ち歩ける」。「簡単」「技術がなくてもそれなりにきれいに撮れる」のはありがたい!

● シニアのデジタルライフの必須アイテムに

- ・その結果、「こんな便利なカメラはない」「楽しくて使いやすい」「カメラが身近になった」と喜ばれている。未利用者は「ぜひ使ってみよう」という声も多く、シニアの写真ライフの必須アイテム化している。
- ・一方、問題点は「電池の消耗が激しい」「起動時間が長い」「高価で安定感がない」等ハード面のほか、「何か味気ない」「使いこなせない」「いろいろあり過ぎて選べない」等、メーカーからのコミュニケーションで改善が期待される面も多い。



カメラに関する情報入手法や相談相手は?

● 男性はインターネットや店頭で情報収集し自分で決める

- ・「カメラ購入に際しての情報入手や相談相手(自由記入)」は、男性では「インターネットからの情報収集」が100人中37名で最多。「店頭で見て」「カメラ雑誌や情報誌」「カタログ、パンフレット」なども多く、自分で情報を集め判断する傾向がある。

● 女性は家族や友人、店頭でアドバイスを求める

- ・これに対して、女性は「家族に相談する」が100人中45名で最多。この他「友人に相談」「店頭で相談」する人も多く、ネットユーザーであってもシニア女性はカメラ購入に際しては、周囲に助言を求める傾向が明らか。



こんなカメラが欲しい、ここが不満! 抜粋編

カメラについての不満点・要望を抜粋してみました。

<女性に多い要望>

- 操作の簡単さ、表示の見やすさ
 - ・老眼なので表示を大きく見やすくして、ボタンが複雑で小さい
 - ・中高年、初心者にも扱いやすいもの。今はいちいち家族に聞いている
 - ・あまりに多くのことができるので説明書を読むのが嫌になる
- 手ぶれを何とかして!
 - ・片手で持つのは結構不安定なもの。
 - ・シャッターがぶれないようにして欲しい
- 携帯性、壊れにくさ
 - ・できる限りコンパクトにして
 - ・電池を携帯しやすくして
 - ・カバーからカメラを出す時にもっと素早く出せたらと思う
 - ・落としても壊れない丈夫なもの
- デザインの良さ、その他
 - ・スタイリッシュなものが少ない
 - ・20~30の文字を入れるスペースが欲しい
 - ・ポケットに入る大きさと動画音声も使えるデジカメ

<男性に多い要望>

- ハード面の機能に関わること
 - ・デジカメでありながら自分でマニュアル調整できるカメラ
 - ・モニターが自在に方向転換できるもの
 - ・デジカメでも光学式のズームのもの~デジカメでの連写
- 存在感のあるカメラ
 - ・昔のように高くてもいいから高級感のあるカメラ
 - ・一眼レフのアナログに憧れている

<男女ともに多い要望>

- デジカメの電池の寿命
 - ・デジカメの電池の寿命が短いのが不満
 - ・ソーラー電池などで充電できるものがあれば...
- 通信機能
 - ・デジカメに通信機能があればパソコンに送れている
 - ・携帯のカメラがもっと良くなればデジカメは必要無い



MARKETING VIEW

● <写真による自己表現や交流>のビジネス化

- 写真がシニアの趣味として浮上してきた。一眼レフやコンパクトカメラの機能が向上、誰でも簡単にそれなりの写真が撮れるように。
- さらにデジタルカメラやパソコンの普及が、新たな写真生活の扉を開いている。写真の編集加工が家庭で手軽にできるようになり、ホームページで公開したり近況をメールで送るなど、自己表現や交流のツールに。
- 実際、写真加工教室が拡大しているが、写真による自己表現や交流という面からも、シニアをめぐる新ビジネスのメニューがあり得るのではないかと。

● <健康志向+写真>など、融合による新しい愉しみを訴求!

- 今回の調査では、今後写真を趣味にしたいという人が多かった。その多くは、最近デジカメやパソコンを使って編集を始めたというケース。もともと趣味の多い女性が、趣味の展開として記録や保存に動き始めている。
- 男性は定年後を見据えて趣味を持ちたいという人も。ウォーキング時に珍しいものを撮りたいという人や、大自然の中で植物を撮りたいという人など、これまでの「健康志向」「自然志向」に、写真を媒介とした新たな楽しさが複合してきた。

● 男性には格調の高さで、女性には実質的な使いやすさでアピール

- どんどん撮れて経済的、携帯できて編集自在、とシニアに大好評のデジタルカメラ。今後の需要が期待されるが、男女では情報アクセスや購入決定プロセスが違うので、媒体選びや内容に気をつけたい。
- 男性はネット、雑誌、カタログなどで検討し、店頭でチェックして買う。ハード面はもちろん、大人の男の趣味としての格調がポイントか。女性は家族に相談する人が多い。機能だけでなく耐久性や価格、手ぶれしないといった実質的な使いやすさ、デザインなどもポイントに。

● マニアからファンへ、単一から複合へ

- 今回の調査での様々な声をヒントに、基本的な魅力点訴求に加えて、たとえば次のようなシーンやコミュニケーションの切り口はどうだろう。
- 例えば「メモ代わり写真」で少量の文章も入れたい。交流好きな人には「写真係り」訴求。「写真による自分史作り」は自分史コンセプトが高邁なイメージ!「写真日記web」「孫やペットのおっかけドキュメント」、俳句に添える「俳写」など。
- マニアからファンへ、単一価値(シーン)から複合価値(シーン)へ。シニアに響く「日々の感動」のありかを伝えたい。